

「2013 あいち消費者教育推進シンポジウム」開催状況

2013年8月1日（木）、ウイंकあいち大ホール（名古屋市中村区）にて『あいちから発信する消費者教育のこれから－消費者市民社会の実現をめざして－』をテーマに、「2013 あいち消費者教育推進シンポジウム」を開催しました。当日は学校関係者、行政関係者、消費者団体関係者、企業関係者等、約530名の参加をいただきました。



第1部では「消費者市民社会をめざす消費者教育の在り方－消費者教育推進法を踏まえて－」と題して、消費者教育推進会議会長代理の西村隆男横浜国立大学教授にご講演いただきました。

「消費者市民社会」とは、消費者が各々の多様性を尊重しつつ、自らの消費行動が持続可能な社会の形成に寄与することを自覚し、積極的に参画する社会であることが示されました。そして「消費者市民」として大事なことは批判的思考を持つとともに、経済



における消費者の影響力を理解すること、持続可能な消費と生産について考えること、民主主義を学んで消費者市民社会形成に参加する能力を身につけることであるとのことでした。

参加者からは、「法の目指すものが良く理解できた。自分の役割があることを常に考える必要があると思った。」「消費者教育が単に消費者被害にあわないためだけのものではなく、公正で持続可能な社会を目指したものと知り、感銘を受けた。」など多くの感想をいただきました。

第2部は「あいちから発信する消費者教育のこれから－消費者市民社会の実現をめざして－」と題してパネルディスカッションを行いました。



椋山女学園大学の東珠実教授をコーディネーターに、エシカル・ペネロプ株式会社代表取締役 原田さとみ氏、環境省中部環境パートナーシップオフィス ESD コーディネーター 山口奈緒氏、テレビでおなじみの弁護士 住田裕子氏、愛知県農林水産部食育推進課課長補佐 村田明弘氏、愛知県教育委員会学習教育部高等学校教育課指導主事 堀田庸平氏の5名をパネリストとしてお招きしました。

まず、2014年11月に名古屋で開催されるESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会が作成した「持続可能な未来とESDユネスコ世界会議の成功に向けて」と題した映像を見た後、「消費者市民社会」をキーワードに、各パネリストから関連する取組事例や課題などをお話いただきました。

原田氏からはフェアトレードやエシカルな商品の説明やフェアトレードタウン運動について、消費者市民社会を実現する上で欠かすことができない、消費がもつ影響力の重要性の一例としてご紹介いただきました。村田氏からは食育推進の立場から消費者教育と関連づけて「あいちいきいき食育プラン」における健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らしの3つの観点から具体的な取組事例を、山口氏からは学校や地域で推進するESD（持続可能な発展のための教育）の取組を通して、将来の持続可能な社会を実現したいとの話をいただきました。また、堀田氏からは、消費者教育モデル校での「フードポイント」による情報を読み解く授業を教育現場における先進的な消費者教育の事例としてご報告いただきました。そして住田弁護士からは、消費者教育の現状に対する認識に触れながら、高齢者被害の事態と対策の重要性について、コメントいただきました。



続くフロアーとの意見交換では、「ESDの学校や社会での取組」「高齢者の見守りのポイント」「消費者教育を推進する上での事業者への期待」などについて質問が出され、各パネリストからそれぞれの立場から回答をいただきました。

また「消費者市民社会の実現にとり重要なことは何か」という質問には、各パネリストの発言から「つながる場」、「地域のネットワーク」、「話し合える場」、「様々な主体との連携」というキーワードが示されました。

最後に、主催者を代表して愛知県県民生活課長が挨拶し、「このシンポジウムを契機として、皆様からいただいた多くの意見を今後の施策に是非とも活かしていきたい」と締めくくりました。

消費者市民社会をテーマとしたシンポジウムは、愛知県では初の試みでしたが、今後の新たな消費者教育の推進に向けて、多様な主体との連携・協働の重要性を関係者で共有するとともに、全国に発信することができたのではないかと考えます。

ご出演いただいた講師の方々を始め、参加いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

愛知県県民生活課